

保育の動き

「子ども・子育て新システムづくりの動向から目が離せない！」

財団法人 川崎市保育会

副理事長 野本ヨシ子



今年、誕生したお子さんの

名前は男の子は一位大翔(ひろと)女の子は一位(さくら)と発表がありました。翔、悠、陽、愛の文字が使われています。陽なたでゆつたりと遊びこませる元気に育って翔んでほしいと願います。

今、保育所をとりまく話題は、幼保一体化の動向が新聞誌上に取り上げられています。政府が六月にまとめた「基本制度案要綱」では「幼稚園・保育園・認定こども園の垣根を取り払い、こども園に一体化する」とし、現行制度を否

定してはなかったが、政府原案は現行制度の廃止を明示、移行するまでの期間も「十年程度」と区切っています。

子ども・子育て新システムの今後の動向としては、平成二十二年六月基本制度要綱⇓平成二十三年通常国会に法制化の法案提出⇓平成二十五年本格施行の工程が示されます。

- こども園のポイント
- すべての子どもへの良質な成育環境を保障
- 保育に欠ける↓要保育度
- 三歳未満児は週二〜三区分別
- 三歳以上児は区分なし
- 保護者と直接契約
- 行政は要保育認定のみ
- 財源は社会全体で費用負担

(国・地方・事業主・個人)

・財源を「子ども・子育て包括交付金」とし市町村に交付

・保育サービスの量的拡大のための指定制の導入(認可はそのまま)

・当面の保育所集積的整備のための補助は維持予定、利用時間や料金は一本化しつつ現行制度を生かす余地も残している。幼稚園は入学金や保育料などを事業主が自由に決められるが、保育所は国が定めた費用で運用し、保護者は所得に応じた保育料を負担する。新制度は保育所同様、原則として国が運営経費を決めるが、私立幼稚園などの移行の際には自主制に配慮し、自由裁量もある程度認める考えとある。保護者の負担は利用時間によって定め、預かる時間は親の働き方などに合わせて利用できるようにする。政府原案は幼稚園と保育所の双方の関係者から激しい反発があり、調

整は難航しそうだとの情報です。

本当にこれからの動きに目が離せない状況です。

今、日本では将来に不安を感じる人、幸福と思えない人が多いと言われています。それは家族の状況と関係があり、一つは子どもたちが遊ばないこと。仲間と自分たちでルールや秩序を作って遊ぶ。そうした遊びの中でしかできない訓練をしない。だから大人になれないし、一人前になれない。もう一つは「大人になったら、こういう大人になる」と子どもが憧れの目で見上げる大人が近くにいないことが原因である。家族はチームであり、それぞれ役割を持つことが大切だと映画監督の山田洋次氏が新聞誌上で語っています。

